

# 古文 文学史 まる見え1枚シート

時代とジャンルで作品と作者を一望。「いつ・だれが・なに」をセットで覚えれば文学史は怖くない！

★★★ 入試超頻出

★★ よく出る

★ 余裕があれば

💡 覚え方

▶ 例文

奈良 (最古)

▶ 平安 (黄金期)

▶ 鎌倉 (隠者文学)

▶ 室町 (軍記・能)

▶ 江戸 (俳諧・町人)

時代の順番がまず最優先。次に「ジャンル+作者+成立年代」をセットで押さえると入試で迷わない。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ (見出しの番号が順番です)

## 1 奈良時代 (~794) 最古のものが集中

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点・覚え方
古事記	歴史書 (神話)	太安万侶 撰録 / 稗田阿礼 誦習 712年	★★★	現存最古の歴史書。変体漢文で書かれる
日本書紀	歴史書 (正史)	舎人親王ら 720年	★★	最初の正史。純漢文・編年体
万葉集	歌集	大伴家持ら編か 奈良末期	★★★	現存最古の歌集。約4500首・万葉仮名
風土記	地誌	各国の役人 713年~	★	地方の産物・地名由来。出雲国風土記が完本

💡 古事記と日本書紀の区別：「古事記=変体漢文・国内向け / 日本書紀=純漢文・正史・対外向け」。記紀 (きき) と並び称される。

▶ 万葉集の特徴：素朴で力強い「ますらをぶり」の歌風 → 平安の古今集の繊細な「たをやめぶり」と対比で問われる。

## 2 平安時代 (794~1185) 仮名文学の黄金期

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
▼ 物語 (作り物語・歌物語)				
竹取物語	作り物語	未詳 平安初期	★★★	現存最古の物語。「物語の出で来はじめの祖 (おや)」
伊勢物語	歌物語	未詳 (在原業平が主人公モデル) 平安初期	★★★	最古の歌物語。「昔、男ありけり」で始まる125段
大和物語	歌物語	未詳 10世紀半ば	★	歌にまつわる説話的な短編集
うつほ物語	作り物語	未詳 10世紀後半	★	現存最古の長編物語。琴の伝来が主題
落窪物語	作り物語	未詳 10世紀末	★	継子 (ままこ) いじめ物語の代表 (シンデレラ型)
源氏物語	作り物語	紫式部 11世紀初め	★★★	全54帖の長編。光源氏が主人公。もののあはれの世界
▼ 和歌集 (勅撰=天皇の命で編む)				
古今和歌集	勅撰和歌集	紀貫之ら (醍醐天皇下令) 905年	★★★	最初の勅撰和歌集。仮名序は紀貫之
▼ 日記・随筆 (女流文学が開く)				
土佐日記	日記	紀貫之 935年頃	★★★	最初の仮名日記。男が女に仮託して書く
蜻蛉日記	日記	藤原道綱母 974年以降	★★★	最初の女流日記。夫兼家への苦悩を記す
和泉式部日記	日記	和泉式部 11世紀初め	★★	敦道親王との恋愛。歌を多く含む
紫式部日記	日記	紫式部 11世紀初め	★★	宮仕への記録。清少納言批判で有名
更級日記	日記	菅原孝標女 1060年頃	★★★	少女時代の物語への憧れ~晩年の回想。作者は道綱母の姪 (蜻蛉日記の作者は母方のおば)
枕草子	随筆	清少納言 1000年頃	★★★	最初の随筆。「をかし」の文学。一条天皇中宮定子に仕える
▼ 歴史物語・説話				
大鏡	歴史物語	未詳 11~12世紀	★★★	四鏡の最初。藤原道長の栄華を批判的に。老人の対話形式・紀伝体
今昔物語集	説話	未詳 12世紀前半	★★★	最大級の説話集。各話「今は昔」で始まる。天竺・震旦・本朝の三部

💡 清少納言 vs 紫式部：「清少納言=枕草子=をかし=中宮定子」 / 「紫式部=源氏物語=あはれ=中宮彰子」。仕えた后が違う！

💡 紀貫之は2つ：「古今和歌集 (最初の勅撰)」と「土佐日記 (最初の仮名日記)」。両方とも「最初」でセット出題。

▶ 更級日記の血縁：菅原孝標女の母方のおば=蜻蛉日記の藤原道綱母。「日記文学の女性は親戚」とつながって記憶。

## 3 鎌倉時代 (1185~1333) 無常観と隠者文学

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
新古今和歌集	勅撰和歌集	藤原定家ら (後鳥羽 監下令) 1205年	★★★	第8番目の勅撰集。本歌取り・三句切れ・体言止め・幽玄
方丈記	随筆	鴨長明 1212年	★★★	無常観の代表。「ゆく河の流れは絶えずして…」和漢混淆文
徒然草	随筆	兼好法師 (吉田兼好) 1331年頃	★★★	「つれづれなるままに…」全243段。知的・批評的
平家物語	軍記	未詳 (信濃前司行長か) 13世紀前半	★★★	軍記の代表。琵琶法師が語る。「祇園精舎の鐘の聲」無常観
宇治拾遺物語	説話	未詳 13世紀前半	★★★	説話集。「こぶとりじいさん」「わらしべ長者」等
小倉百人一首	私撰歌集	藤原定家 撰 13世紀	★★	百人の和歌を一首ずつ。定家は新古今の選者でもある

💡 方丈記 vs 徒然草の混同注意：「方丈記=鴨長明=ゆく河」 / 「徒然草=兼好=つれづれ」。書き出しで覚えると間違えない。

▶ 定家は2作で頻出：父子で和歌の名家。「新古今和歌集 (勅撰の選者)」+「小倉百人一首 (私撰)」をセットで。

## 4 室町時代 (1336~1573) 軍記と能の大成

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
太平記	軍記	未詳 (小島法師か) 14世紀後半	★★	南北朝の動乱を描く大軍記。太平記読みで流布
御伽草子	短編物語群	未詳 (多数) 室町期	★★	「一寸法師」「浦島太郎」等の庶民的短編の総称
風姿花伝	能楽論	世阿弥 15世紀初め	★★	能の理論書 (=花伝書)。「秘すれば花」

💡 能の親子：観阿弥 (父) が能を大成、世阿弥 (子) が理論書『風姿花伝』を著す。將軍足利義満の庇護。

## 5 江戸時代 (1603~1868) 俳諧・浮世草子・浄瑠璃

作品	ジャンル	作者・成立	頻出	要点
おくのほそ道	俳諧紀行	松尾芭蕉 1694年頃成立	★★★	東北・北陸の旅。「月日は百代の過客にして」蕉風俳諧
好色一代男	浮世草子	井原西鶴 1682年	★★	浮世草子の最初。町人の世界を描く
曾根崎心中	浄瑠璃 (脚本)	近松門左衛門 1703年	★★	世話物の代表。義理と人情の板挟み
雨月物語	読本 (怪異小説)	上田秋成 1776年	★★	怪異・幻想短編集。「浅茅が宿」「菊花の約」等

💡 元禄の三文豪：「俳諧の芭蕉 / 浮世草子の西鶴 / 浄瑠璃の近松」。ジャンルとセットで3人を区別。

▶ 「過客」つながり：おくのほそ道の冒頭は、李白の詩文 (「春夜宴桃李園序」) を踏まえた表現。漢文の素養が江戸文学にも流れ込む。

## 6 重要まとめ枠 (ここだけは丸暗記)

三大随筆	成立順がポイント	四鏡 (しきょう)	成立順を覚える		
作品	作者	時代	作品	時代	覚え方
枕草子	清少納言	平安	大鏡	平安	大→今→水→増 だい・こん・すい・ぞう
方丈記	鴨長明	鎌倉	今鏡	平安末	
徒然草	兼好法師	鎌倉	水鏡	鎌倉	
			増鏡	南北朝	

💡 順番は「枕→方丈→徒然」=平安→鎌倉→鎌倉。

💡 成立順「大根すいぞう (だいこんすいぞう)」で4つ一気に！

## 7 ジャンル別 代表作 早見表

ジャンル	代表作 (時代順)	ひとこと
歴史物語	大鏡 (平安) → 四鏡へ	歴史を物語風に。紀伝体・対話形式
軍記物語	平家物語 (鎌倉) → 太平記 (室町)	合戦と武士の興亡。和漢混淆文・無常観
説話	今昔物語集 (平安) → 宇治拾遺物語 (鎌倉)	仏教説話・世俗説話。庶民的で教訓的
日記	土佐 (紀貫之) → 蜻蛉 → 和泉式部 → 紫式部 → 更級	土佐以外はほぼ女流。回想・心情
勅撰和歌集	古今 (平安・最初) → 新古今 (鎌倉・8番目)	古今=たをやめぶり / 新古今=本歌取り・幽玄

💡 「最初の〇〇」総まとめ：歌集=万葉集 (現存最古) / 勅撰集=古今和歌集 / 物語=竹取物語 / 歌物語=伊勢物語 / 仮名日記=土佐日記 / 随筆=枕草子 / 浮世草子=好色一代男。この7つは超頻出！